

内 容

- 創立 60 周年腐食と闘う樹脂ライニング工業会
- 日本の重防食技術の早期確立
- 防食施工計画士養成コースの推進
- 事務局だより — 業務報告



一般社団法人 樹脂ライニング工業会会報

2026 年 1 月 1 日(木曜日) 第 67 号

発行元：一般社団法人樹脂ライニング工業会 事務局
〒532-0011 大阪市淀川区西中島 6-2-3 チサンマンション第七新大阪 901 号

創立 60 周年 腐食と闘う 樹脂ライニング工業会

謹賀新年

~ 2026 年 新年にあたって ~

防食ライニング国家検定・防食施工計画士推進・プラント重防食技術の早期確立

国家検定について
直近 2023 年度後期の内容
は第 4 頁の左欄を参照

2024年度 防食施工計画士 養成コース

一般社団法人 樹脂ライニング工業会
公募社団法人 日本プラントメンテナンス協会

写真 1

写真 1：第 16 回の防食施工
計画士養成コーステキスト



写真 2

写真 2：同養成コースの副
読本「樹脂ライニング皮膜
の劣化診断指針」(全 146
頁, 2021 年第 3 版)
本書は皮膜の劣化の種類
や事例等がまとめられて
おり、現場で非常に有用な
ハンドブックです。
英語解説版も頒布中。

新春研究会を開催します

事業売上テーマ探求・各種設備保全活動
(第 16 回)

当工業会主催の新春研究会は、樹脂防食技術に
関連した旬なテーマをいち早く取り上げ、皆様に
紹介することを目的として例年開催されておりま
す。16 回目の今回は、2026 年 1 月 23 日(金)に東
京科学大学にて実施予定です。

今回の講演内容は、下水道等のコンクリート構
造物の防食技術に関わるものや、FRP 材料の劣化
機構、新しい非破壊検査手法、さらには防食塗装
分野の最近の動向などをテーマに開催予定です。
(詳細は第 4 ページの左欄を参照下さい)



写真 3：
例年の新春研究会資料

[問合せ先]
当工業会事務局
TEL: 06-6885-0333
FAX: 06-6885-0777

1. 今年の展望

新年おめでとうございます

昨年 5 月末新型コロナウィルス対策が 5 種に軽減となり、2 年前から中止となつた
行事等が少しずつ緩和され、感染防止対策をとりながら再開傾向が見られるようにな
りました。

当工業会も各行事について、ZOOM 併用参加により活動を継続し、当工業会の活動を
防食分野業界にアピールできるよう努力してまいります。それとともに会員殿の事業
発展をお祈りいたします。

2. 国家検定制度 22 年目を目指して

防食ライニングの技能検定は、関係官庁・関連企業のご指導・ご協力により 22 年
目となります。これは、当工業会が以前自主的に「防食品質の向上」を目的に「技能
者資格教育」を 5 年間行っていたものを、国家検定制度に格上げして頂いたもので、
当工業会として一層力を入れさせていただく所存であります(関連記事: 第 2 頁下
欄・第 4 頁左欄参照)。

3. 防食施工計画士養成コース(17 回目)の推進

2008 年に(公社)日本プラントメンテナンス協会殿との共催で第 1 回を開始して以
来、昨年の第 16 回までに累計 213 名が修了され各方面でご活躍されています。

本養成コースは、過去数年の計画準備期間を経て、日本で初めて発注者と受注者が
一体となってプラントメンテナンスを考え、安全・安心なプラント運転を通じて社会
に貢献することを目的としています。本年度からは、樹脂ライニング工業会の単独開
催として第 17 回の実施を予定しており、それに伴い講師陣や講義内容も、より一層
充実したものとなる見込みです。また、本養成コースで使用している副読本『樹脂ラ
イニング皮膜の劣化診断指針』(写真 2) はご好評をいただいており、英語版も頒布
しております。

4. プラント重防食技術の早期確立

高齢化により、ベテラン専門技術者が減少しています。日本の基幹産業を支える社会
資産の健全性維持は国家の急務であります。プラント重防食技術を早期強化し、責
任ある人材を育て、支えていく必要があります。このため、当工業会では KHK(危
険物保安技術協会)をはじめ、発電所・上下水道・化学プラント等の防食に働く人材の
育成、技術の開発に力を入れます(関連記事: 第 2 頁上欄)。

5. 今年の決意とお願い

当工業会は多方面のプラント・諸施設の防食工事を行う、
日本でもあまり類を見ない工業会です。防食材料や工法・用
途の種類にこだわらず広く結集し、会員皆様、防食関係者の
声を大きくする必要があります。皆様の樹脂ライニング工業
会は理事・事務局全員力を合わせて、ご期待に添うよう尽力
する所存です。詳細な活動内容につきましては、当工業会の
HP をご覧ください(URL: <http://www.pla.gr.jp>)。

皆様の声をお寄せください。何卒よろしくお願い申し上げ
ます。

2025 年度役員
代表理事 野崎 雅明
副会長 藤永 忠利
理事 大日向 昭
理事 石川 隆行
理事 岩本 盛男
理事 田丸 孝治
理事 小林 健一
理事 豊田 守隆
理事 田中 元
理事 佐野 耕介
理事 田邊 弘往
理事 松野 英則
理事 新倉 均
監事 山内 良沢

[報告]



日本の重防食ライニング・エンジニアリング技術の早期確立



(専門技術者・担当職員の育成と長期耐久性技術開発)

耐久性・工法委員会 会長：野崎 雅明、理事：松野 英則



会長 野崎 雅明



理事 松野 英則

1. KHK 殿との協力

KHK(危険物保安技術協会)殿に当工業会は防食技術について、39年間ご協力させて頂いております。内容は、屋外大型貯蔵タンクの内面防食であり、下記の講習会に講師を派遣しています。

- ①屋外貯蔵タンクコーティング管理技術者講習会
- ②コーティング上からタンク底部の板厚を測定する測定者に対する講習会

2. 資格教育技術者育成－資格認定制度

KHK では毎年講習会と試験による資格認定を実施しております。2025年度は①は右表1、②は右表2のとおり開催されています。詳しくは KHK の HP (<http://www.khk-syoubou.or.jp/>) をご覧ください。

3. 重防食ライニング・エンジニアリング・アドバイス

腐食や高温などの厳しい環境ではプラント装置の劣化はかなり早く進みます。補修による操業停止を繰り返し、多くのロスが発生しているのが現状であります。運転条件を把握し、腐食しにくい材料の選択と工法の確立により、ライニングの寿命延長が図られるようなアドバイスが必要です。

表1 屋外貯蔵タンクコーティング管理技術者講習日程

地区	受講区分	講習会・試験日
東京	初回	2025年12月2日～12月3日
	再講習	2025年12月4日～12月5日 2026年1月30日
大阪	初回	2026年1月21日～1月22日
	再講習	2026年1月23日

表2 コーティング上からタンク底部の板厚を測定する測定者に対する講習会

地区	受講区分	講習会・試験日
東京	初回	2026年3月4日～3月6日
	再講習	2026年3月6日
大阪	初回	2026年3月4日～3月6日
	再講習	2026年3月6日

4. 防食メンテナンスの強化とエンジニアリング技術体制の早期確立

近年、危険物施設に限らず、コンクリート構造物等の老朽化により、補修や補強工事によるメンテナンスの強化が講じられています。当工業会は、防食耐久性点検に力を入れています。一方、顧客各位からの防食工事を会員に紹介し、その際エンジニアリングについてできるだけ協力し、その体制を確立していくたいと考えます。

[報告]



強化プラスチック成型技能士検定(国家検定) 合格者 1,457 名



(2001～2023年度までの23年間の実績)

国家検定委員会 委員長（監事）：新倉 均



委員長 新倉 均 大日向 昭

1995年、当工業会は自主検定をはじめ、これを基礎に2001年国家検定に合格上げされ現在に至っています。表3のように23年間で合格者累計1,457名となりました。この技能検定は防食樹脂ライニング施工の基礎となるものです。当工業会は、今後も国と協力して本検定を継続的に普及させ、施工技能者の技量確保に努めます。

近年、受検者数が滞る傾向もあり、2020, 2022年度はコロナ影響もあり中止しましたが、2026年度も受検希望者が多数おられ実施予定です。

表3 強化プラスチック成形技能検定の受検申請者数と合格者数の推移

年度	I級				2級				合格者数合計
	申請者数	学科合格者数	実技合格者数	合格者数	申請者数	学科合格者数	実技合格者数	合格者数	
2001	113	83	98	86	7	5	7	5	91
2002	172	139	116	113	33	25	20	19	132
2003	215	164	150	153	24	20	21	20	173
2004	269	174	171	148	9	5	4	3	151
2005	208	144	124	125	15	12	8	8	133
2006	216	140	121	112	20	14	12	12	124
2007	169	113	119	120	22	14	17	13	133
2008	128	65	91	68	17	11	9	9	77
2009	116	76	62	69	8	5	5	5	74
2010	81	54	51	50	16	10	8	9	59
2011	127	90	90	86	31	18	20	16	102
2012	117	85	76	69	23	16	13	82	82
2013VE	23	22	22	0	0	0	0	0	22
2014VE	16	10	12	12	2	1	1	1	13
2015VE	22	16	11	11	3	2	2	2	13
2016VE	16	14	11	13	10	1	7	8	21
2017VE	18	16	11	11	5	3	2	2	13
2018 VE+EP	19	13	11	10	6	6	6	6	16
2019 VE+EP	17	4	8	8	0	0	0	0	8
2020 VE+EP	13	9	7	6	4	4	4	4	10
2023VE	11	6	9	9	3	1	1	1	10
計	2,086	1,437	1,365	1,301	258	173	152	156	1,457

国家検定2001年～現在の結果、I級 2級合計累計1,457名（受検申請者数2,344名）

資料出所：中央職業能力開発協会のご厚意による

VE:ビニルエステル樹脂

EP:エポキシ樹脂



「防食施工計画士養成コース」の推進



(当工業会単独開催に向けて)

防食施工計画士委員会 委員長：平山 晃



委員長 平山 晃

「防食施工計画士養成コース」は、プラントにおける防食施工・防食管理に関する正しい知識を身に付けることで、ユーザーやメーカー担当者が適切な設計・保全業務を行えるようにするための講座です。本コースは(公社)日本プラントメンテナンス協会殿と当工業会との共催で2008年からスタートし、2024年までの17年間で計213名が修了され(表3)、各現場にて活躍されています。

表3 防食施工計画士養成コース実施状況

開催年	月日	場所	修了/認定者数	累計
2008	10/30, 10/31	大阪商工会館	10名	10名
2009	9/29, 9/30	大阪商工会館	9名	19名
2010	10/7, 10/8	大阪パークサイドホテル	11名	30名
2011	9/1, 9/2	(社)日本プラントメンテナンス協会 東京品川	10名	40名
2012	9/11, 9/12	(公社)日本プラントメンテナンス協会 東京芝公園	10名	50名
2013	9/4, 9/5	(公社)日本プラントメンテナンス協会 東京芝公園	14名	64名
2014	9/11, 9/12	(公社)日本プラントメンテナンス協会 東京芝公園	17名	81名
2015	9/10, 9/11	(公社)日本プラントメンテナンス協会 東京芝公園	14名	95名
2016	4/21, 4/22	(公社)日本プラントメンテナンス協会 東京芝公園	17名	112名
2017	5/21, 5/22	(公社)日本プラントメンテナンス協会 住友商事竹橋ビル	15名	127名
2018	4/19, 4/20	(公社)日本プラントメンテナンス協会 神保町SFⅢビル	14名	141名
2019	4/10, 4/11	(公社)日本プラントメンテナンス協会 神保町SFⅢビル	15名	156名
2021	7/19, 7/20	(公社)日本プラントメンテナンス協会 神保町SFⅢビル	10名	166名
2022	7/19, 7/20	(公社)日本プラントメンテナンス協会 神保町SFⅢビル	18名	184名
2023	7/20, 7/21	(公社)日本プラントメンテナンス協会 神保町SFⅢビル	15名	199名
2024	7/18, 7/19	(公社)日本プラントメンテナンス協会 神保町SFⅢビル	14名	213名

講義内容は、プラント保全管理のポイントとともに、防食施工、品質管理、劣化診断指針の要点について、代表的な事例を挙げて解説します。講義内容の詳細につきましては、表4を参照ください。

2026年からは当工業会単独開催として、表4のような1日間の実施で鋭意準備を進めております。

表4 防食施工計画士養成コース教育内容

午前	設備保全概論	<ul style="list-style-type: none"> 防食施工計画士の任務 設備保全の歴史 設備保全の目的 ロス・リスク低減の根拠対策 計画保全体制 標準的な保全方式 保全実行体制 アウトソーシング管理 	出光興産(株) 釜賀 輝氏 (予定)
	防食施工・検査計画	<ul style="list-style-type: none"> 腐食と防食の目的 設備保全と防食 計画保全と施工計画 防食施工計画のポイント 防食管理手順 	
午後	防食施工の種類と防食品質検査のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 防食施工概説 防食施工の種類 防食施工の特性 原材料の選定 材料・工法の選定 母体・下地処理 	(一社)樹脂ライニング工業会 野崎 雅明氏
	樹脂ライニング皮膜の劣化診断技術	<ul style="list-style-type: none"> 樹脂ライニング皮膜の劣化損傷概説 樹脂ライニング皮膜の劣化損傷診断の評価法 樹脂ライニング皮膜の劣化損傷診断の試験法 関連法規 	
	副読本として、「第3版・樹脂ライニング皮膜の劣化診断指針」を使用。 (第1頁左参照)	修了試験	富士レジン工業(株) 平山 晃氏



既設コンクリート構造物の樹脂ライニング下地処理



(工業会基準書の見直し)

規格基準委員会 委員長：岩本 盛男

コンクリート委員会 委員長：小林 健一



規格基準委員長 岩本 盛男

当工業会では、1990年代に鉄筋コンクリートの用途や立地環境によっては樹脂ライニングによる防食性能の重要性を注視し、業界関係者と共に「新設コンクリート構造物の防食樹脂ライニングのための下地標準仕様（案）」と「既設コンクリート構造物の樹脂ライニング下地処理仕様（案）」を制定しました。

両基準書とも（案）とついた状態でしたが、基準書の見直しを前提に、実際に販売、運用がなされることとなりました。2004年には「新設コンクリート構造物の防食樹脂ライニングのための下地標準仕様」として改訂が行われ、（案）が外れたものとなりました。

2022年から、「既設コンクリート構造物の樹脂ライニング下地処理」の（案）を外すことを目的として、改訂作業を開始しました。内容を確認したところ、特に記載内容を変更すべき箇所は見当たりませんでした。ただし、文書校正として、誤字脱字、体裁整え、図表の作り変えなどを行い、改訂作業を完了しました。今回の改訂作業はコンクリート委員会と事務局のご協力の元、改訂が完了し、11月の理事会にて承認されました。

今後、コンクリートの防食が重要になっておりますので、各基準を参考にしていただければ幸いです。



強化プラスチック成型技能検定（国家検定）

○ 実技試験

試験日：2024年1月13日（土）→済

会場：東京都立多摩職業能力開発センター 府中校
人材育成プラザ

（前日1月12日（金）に同会場にて講習を実施）

○ 学科試験

試験日：2024年1月28日（日）午後→済

会場：東京都内/大学及び大阪府内大学
(詳細は第2頁下欄項目参照)

防食施工計画士養成コース

○ 講義および試験

実施日：2026年7月実施予定(詳細が決まり次第HPにて発表)

会場：新大阪駅近郊ビル（NCL8号館予定）

(第1頁右欄項目3参照)

研究会（新春研究会）

開催日：2026年1月23日（金）

時 間：13:00-17:00 ZOOM併用実施予定。

会 場：東京科学大（旧東工大）S-1 2F 215会議室

表5 2026年新春研究会の講演プログラム

No.	講演タイトル	講演者
1	FRPに対する塩酸浸入に及ぼす濃度サイクルの影響	久保内 昌敏 東京科学大学 大学院
2	ISO/TC35/SC14（防食塗装分野）の最近の話題と展開	田邊 弘往 東京理科大学、特別顧問
3	静電容量測定によるFRP非破壊劣化診断技術	杉本 健一 セイコーハイテク（株）
4	既設コンクリート構造物下地処理基準書改定紹介	岩本 盛男 (一社)樹脂ライニング工業会
5	下水道コンクリート防食点検・施工方法検討	平山 晃 富士レジン工業（株）

強化プラスチック協会・CON-EX2025講演

(一社)強化プラスチック協会様主催の「70th FRP CON-EX 2025」(10/29-10/30, 東京 秋葉原)に、当工業会PRのため佐野理事及び神沢(事務局)が参加し、下記題名で講演を行いました。

講演1. 樹脂ライニング工業会活動報告(19) (佐野理事)

講演2. セメント・コンクリート防食エンジニアリングの進歩
(神沢)

講演1で使用した資料の一部

ここでは国家検定の試験体の概要や施工要領DVD等について紹介を行った。



佐野理事

神沢(事務局)
講演の様子

2025年度定期総会開催

当工業会は2024年度末で創立して第59期を迎えました。爾来、嘗々と創立の精神を「ミッション」として掲げ、会員全員で力を合わせ樹脂ライニングの技術力と市場を強化してきました。総会はその結集の場であります。今回の総会では下記の議案に基づいて各委員会活動報告や今後の国家検定協力体制検討、また貴重な講義があり、実行計画案も承認されました。

- 第1号議案：「令和6年度総事業および委員会活動報告」
- 第2号議案：「会計報告」
- 第3号議案：「令和7年度新体制と事業計画・予算案」



総会風景

2025年7月11日(金)

NLC 新大阪8号館9F会議室にて

[情報] ISO国際規格2025年の動向と展望

ISO/TC35 ミーティングが2025年6月11日から19日にわたり東京で行われた。これまで欧州、米国、アジアで開催され、日本では過去4回開催した。防食塗装分野でよく知られているISO12944規格はこの会議から生まれた。海外から11カ国、54名が参加した。多くのエキスパート達が一堂に会し、日本の参加者には大きな刺激となった。TC35（塗料及びワニス）に属するSC（サブコミッティ）にはSC9（塗料試験法に関する委員会）、SC12（塗装前表面処理に関する委員会）、SC14（塗装による鋼構造物の防食に関する委員会）、SC15（コンクリートの塗装による保護、防食に関する委員会）などがあり、これらのSC分科会及びそれに属するWG（ワーキンググループ）によるミーティングが行われた。コンクリート構造物の保護、鋼構造物の塗装による腐食防食に関連するもので、①ISO12944-5、同-6の大幅な改定、②海上風力発電構造物の防食塗装、これと関連してTC35/SC9で進められてきた風力発電のブレードの塗装系、③ISO/TR 20470-1のふっ素塗料塗装系の長期耐久性など。このISO東京会議は防食塗装分野のISO規格に明白な将来展望を与えた。それは防食規格の充実、日本・世界を見渡してインフラのメンテナンスが求められる中、それらに対応する規格化を決定した。また塗料検査員および塗装作業者の技量要件に関する規格化を決めた。



田邊 特別顧問

TC35/SC14国際会議集合写真(2025/6/19, 日塗工様提供)

創立60周年記念誌編纂準備

半年後には創立60周年を迎えます。過去9年間の記録を収集中ですが、今年度中に10年間の業績まとめを編集する体制作りにご参画、御協力をお願い致します。